

星屑

1996年11月号
No. 260



熊本県民天文台

CCD REPORT

COMET PAGE 1996-10

Porco Nisse

C/1995 O1



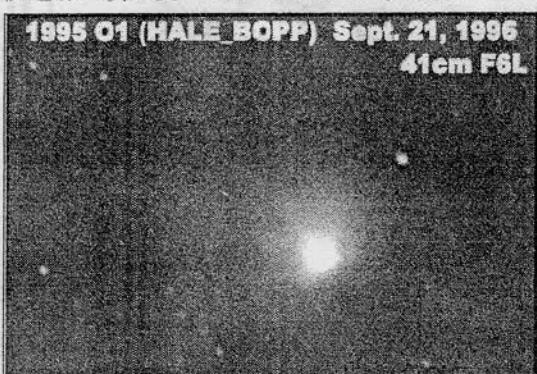
Oct. 9, 1996

世紀の大彗星 Hale-Bopp 彗星は、彗星の大親分なのでしょうか！このところ続々と彗星が出現しています。今回はこれら今を飾る彗星たちをたっぷりと紹介します。

★ C/1996 O1 (HALE-BOPP)

このところ光度上昇が鈍って本当に明るくなるのか心配させる状態ですが、CCD では活発な核近傍の姿に変わりはありません。数本のジェットと東に伸びる尾が眼視でも見えます。まだま

1995 O1 (HALE-BOPP) Sept 21, 1996
41cm F6L

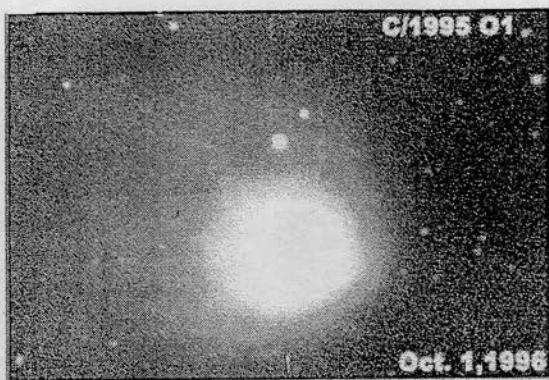


C/1995 O1

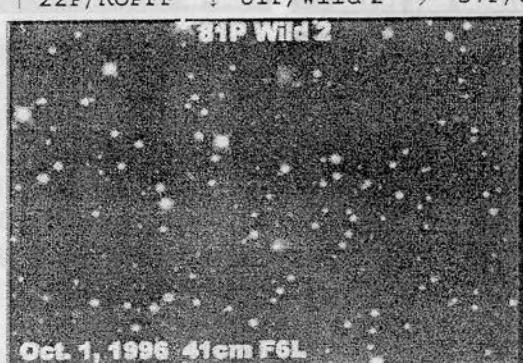
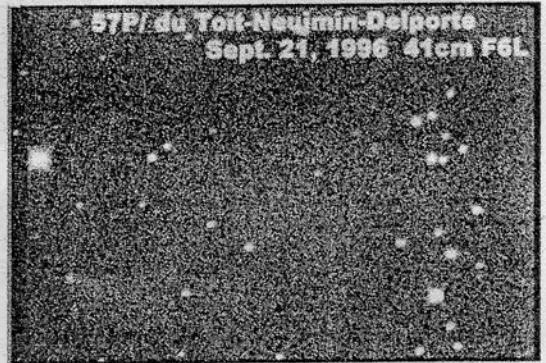
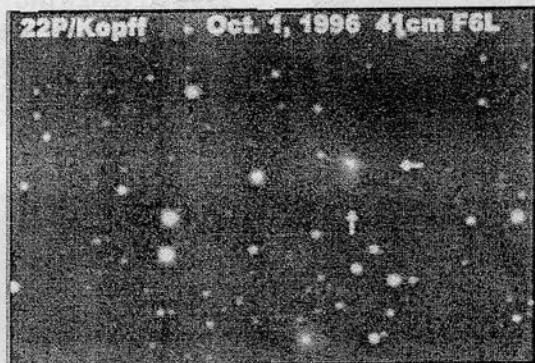


Oct. 1, 1996

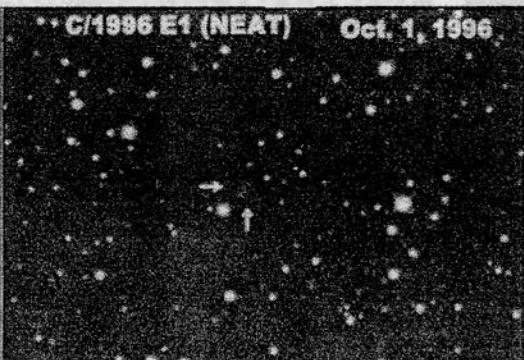
まだまだ観測好機は続きますから要注目です。



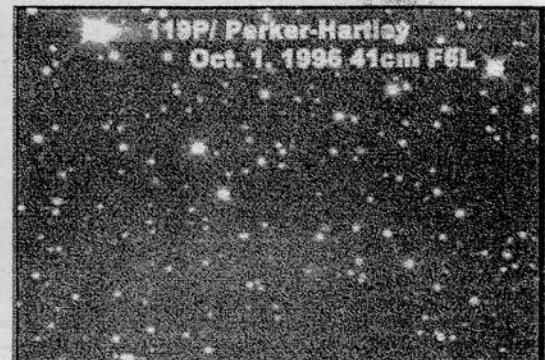
*** 核付近の構造に注目してください。 ***



↓ C/1996 E1 (NEAT)



↓ 119P/Perkaer-Hartley



↓ C/1996 N2 (ELST-PIZZARO)



↓ C/1996 P2 (RUSSELL-WATSON)



↑ C/1996 R1 (HERGENROTHER-SPAHR)
← C/1996 N1 (BREWINGTON)
読み方の難しい彗星特集といった画像集になりました。さて、貴方はいくつきちんと読めるでしょうか・・・?

★ C/1996 Q1 (TABUR)



夕空の H-B 彗星に気を取られていたら、いつの間にかもっと明るい彗星が夜明け前に見えるようになりました。

この彗星は、1988 年に出現した LILLER 彗星とほぼ同じ軌道が計算されて、何らかの

関係があると思われます。見た感じはガスが多い緑色の彗星です。10月9日の13cmでの画像はカラー画像ですので、色を見たい方は INTERNET でどうぞ。今が見頃の彗星です。

誘
わ
れ
て
・
ス
タ
ー
パ
ー
テ
イ

おこしわり

今日は、一年前の話です
途中まで書いて止めていた
ものをやっとまとめあげた
ことができました。

たかた

夏期休暇を使って屋久島にキャンプに行くという計画は、直前に決まったアメリカ出張でもろくも崩れ去ってしまった・・・・

キャンプの様子を友達に電話で聞くと「山の上では星がふだんの3倍ぐらい見えていたぞ・・・」と話してくれた。それが出発の前の日のこと。
くやしがりながらも、次の日はアメリカ・カリフォルニアに向かった。

と、ころんでもただでは起きないとは私のことで、キャンプの代わりに、サンノゼ天文協会 (SJAA:San Jose Astronomical Association)のメンバーの人と接触をしてこようとしたのです。

話は前回のリック天文台訪問（「星屑」244号を見てね）までさかのほります。

インターネットのネットニュースのひとつ、alt.sci.astro に「リック天文台にいきたいのですが...」と、投稿しておいたところ、SJAA のボブ・マッデン(Bob Madden)なる人物から、「天文台に連れていってあげてもいいよ...」とお誘いの電子メールが届いたのです。その時は時間がなくて結局会えなかったのですが...。

今回の出張に行く前に、日本から「ぜひ、お会いしたい」とボブ・マッデン氏に電子メールをだしたら早速返事が返ってきました。具体的な予定は立てていなかったのですが、とりあえずアメリカのオフィスのほうのメール・アドレスを教えておいてアメリカに発ったのです。

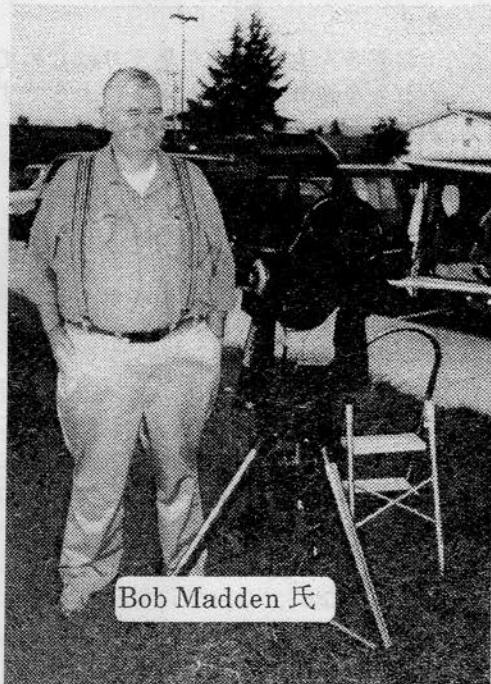
力 カリフォルニアは西海岸特有の湿度が低い気持ちのいい夏が始まっていました。

出張先での忙しい業務のさなか、ボブ・マッデンさんの電子メールがとびこんできました。「今度の金曜日、**スターパーティ**をやるから来ないか？」

電話で連絡をとると、スターパーティというはどうやら市民観望会のことみたいです。さっそくホテルに迎えに来てもらうことにしました。

8月5日、この日も相変わらず快晴でした。夕刻、ホテルで待っていると、私より2周りも3周りもでかい体格の、ボブ・マッデンさんが訪ねてきました。自己紹介もそこそこに早速、彼のオンボロ・フォードトラック（失礼！）に乗り込みました。

フリーウェイは少し混みはじめていました。道中、たどたどしい英語でおしゃべりをしていきました。



Bob Madden 氏

ボブ・マッデンさんについて、最初私は電子メールを使っているので、てっきり自分と同年代の若い人かなと思っていたのですが、実は、すでにロッキード社を（定年？）退職されている方で、大勢の子供さんたちも皆それぞれ独立して、奥さんと2人暮らしだそうです。いまや天文を趣味とする悠々自適の暮らしをされているようです。

SJAAは会員約250名。月に何回かSTAR-PARTYと称して市民観望会や会員だけの観望会を開いているそうです。市民観望会の宣伝は教師の会員の方に頼んで学校などでやつもらっているそうです。アクティブな会員は20名ぐらい。会員の中たは新彗星の発見で有名なマックホルツ氏もいるということです。

会場となるゴルフ場に面したHugePark公園に着くとすでに何名かの会員の人たちが望遠鏡を組みあげて見ていました。太陽が沈んだばかりなのでもっぱら上弦の月を見ています。アメリカのことだから自作のさぞや大きな望遠鏡が並んでいるのだろと思ひきや、予想に反して、半分以上はメーカーのもので、40cmぐらいのドブソニアンがこの日の最大の望遠鏡でした。全部で15機ぐらいでしょうか。

ところで、みんな、駐車している自分の車のすぐ後ろの芝生に望遠鏡を並べていくものですから、駐車場と芝生の境界線に沿って南北一直線にぎりりと並んでいました。

望遠鏡を持ってきてるのは、中には若い人もいますが、結構年輩の方が多いようです。

仕事を退職されているような年輩の方が組み立てた望遠鏡の傍らで、ゆっくり椅子に腰掛けてお客様を待っています。その様子は、アメリカの市民活動の成熟ささえも感じられます。

お客様もぼちぼち集まりはじめています。子どもを連れて来る人が多いようです。遅れてきた会員の方も車に自分の望遠鏡を積んでやって来ます。

宵が深まっていくうちに、月の左側に木星が見えだしました。その後、火星、M57、アルビレオなど夏の夜空でおなじみの天体に望遠鏡が向けられます。お客様も増えて望遠鏡の後ろに並びはじめました。

こここの公園は、サンノゼ市街のすぐ南にあり、日本だと観測条件は最悪のはずなのですが夜の照明が少ないと、空気・空の透明度が高いとので比較的よく星が見えます。またここから北のほうにあるサンノゼ空港は24時間、旅客機の離発着がおこなわれているのですが航路からはずれているので気にならないそうです。ところで、青い照明をつけながらヘリコプターが1機南の方から飛んできました。あれは、なんだと誰かに尋ねると、スピード違反を取り締まるための警察のヘリだと教えてくれました。

SJAAの会員の方は、私たちが一般公開でやるように丁寧に星の解説をしていきます。私は傍で聞き耳を立てていました。私の英会話の聞き取り能力は、はつきりといってみたいことがない、ついでに言っちゃうとへたくそなのですが、この時とばかりは、ほとんど単語が聞き取れないのに、何を言わんとしているのかだいだいわかってしまいました。

だいたい惑星を初めて見た人の驚き方というものなど、県民天文台でのお客様と、全



SJAAの会誌“SJAA EPHemeris”

非常に手慣れたつくりの会誌。

STAR-PARTYの予定、観測ガイド、コラム、レポート、そして最後のほうにマックホルツ氏が彗星の記事をかいている。8頁

日本の同好会会誌と比べてみて、アメリカのPublicatio文化が行き渡っているということを実感させられる。

く同じようなアクションをするもので、こういったものは文化や民族の差異をのりこえて人類に普遍的に備わっているもののかなと妙に感心していました。

そのうち、私もズにのって持ってきたマグライトを使って星の説明をやりはじめました。星の発音などは日本流に言っても通じないので、それでも熱心に聞いてくれる人がいるもので、そのうち「あなたは、先生なのですか?」と聞かれて「いや、出張で日本からきている***のエンジニアだ」とこたえると「オー、ネックかネックか」と驚かれてしまい、なるほどうちの会社はネックと呼ばれているんだと…勉強になりました。

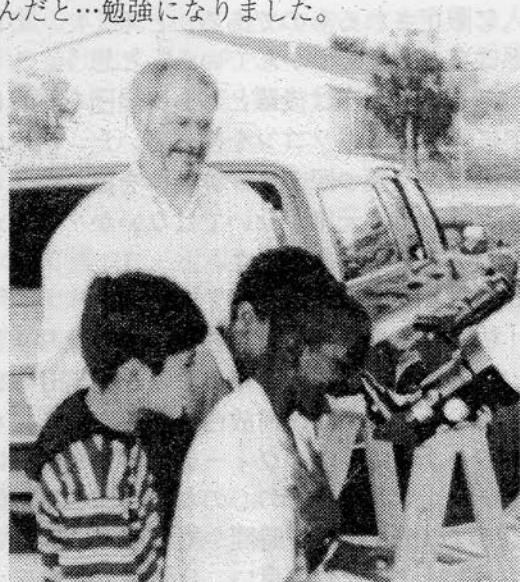
10時をすぎたころ、そろそろお客様が減り始めてくると、今日の観望会はそろそろ店じまい。会員の方は望遠鏡を片づけて三々五々帰っていました。

よその国にいった時、観光でも出張でも、普通の市民の方と話したり知り合いになつたりする機会がなかなか無いのですが、今回はスターパーティのおかげで、いろんな人と話すことができて楽しい思い出になりました。こんど行く時、時期がうまくあつたら、ヨセミテ国立公園内のスターパーティに参加したいです。

また、エンジニアを職とされている方は、いつかは、サンノゼがあるシリコンバレーに出張に行く機会があると思いますが、一度仕事を離れてスターパーティに参加されてみてはいかがでしょうか?

連絡先は、

SAN JOSE ASTRONOMICAL ASSOCIATION
5380 PEBBLETREE WAY
SAN JOSE, CA 95111-1846

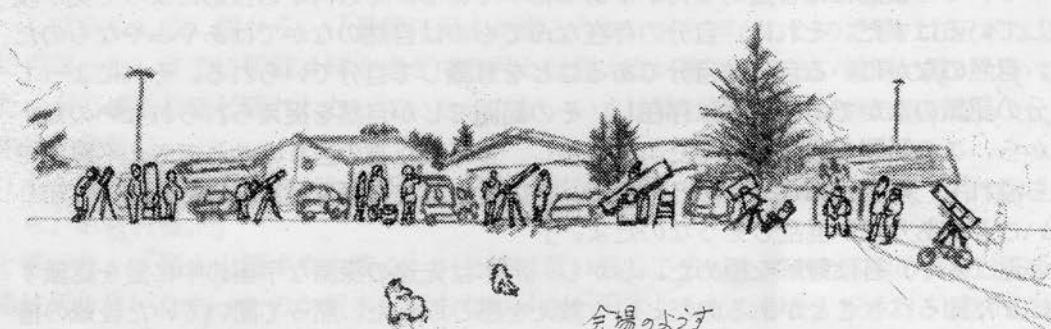


です。

またSJAAのホームページもあります。

<http://www.rahul.net/resource/sjaa/index.html> です。

会場のようす



ところで、私事でなんですが、周りの人たちに影響されて、自分のホームページを立ち上げました。この号が会員のみなさまのお手元に届く頃は、「なんとか」見れるものができているはずです。よろしかったらおいでください。

URLは、<http://pweb.pa.aix.or.jp/~legacy/index.htm> です。

(())

(..).

高田があるく 第3回終わり JAE00724@niftyserve.or.jp (☆)

連続天文台小説

シリウスよりも輝いて

第9話 菩提樹の木の下で 徳尾 尚史

自宅にて、沢木1人で考える。原点に戻るべきである、と。だが、戻りすぎた——。好きになるとはどということか？しかし、ここでは人類愛、博愛とは異なり、対象を特定の人に限定されるものである、と考えた。では如何なるものか、言葉で表せない。だが、輪郭はなんとなくつかんでいる、と思う。

ある日、沢木は後輩とともに星団を写真に撮るために天文台に向かう。台長の艶島がすでに来ていてパソコンを操っていた。沢木は艶島に挨拶して2階に上り、撮影の準備をした。2人で幾つかのメシエ天体を撮り終えると、艶島が上がって来て沢木に、「近頃、君、元気がないではないか？いかがしたのか。以前、君が言っていた白石さんのことかな？話したまえ。」

と言うと、沢木は問う。

「私は白石さんという女性を好きになりました。そして、そのことで私は愛の本質を問うてきたのですが、未だに解答を見出せないので。」

艶島：「それでは、何故白石さんを好きになったのか？」

沢木：「私は彼女のヴィーナスの如き慈愛に満ちた美しい微笑みに惹かれたのです。」

艶島：「それは自分の心のなかで作られた像にどれだけ現実の像が近いかを見ているだけではなかろうか。時間が経つとその美しさはどうなるだろうか。美しさで好きならば自然を好きになれば良い。自然は無限の広さ、変化で永久に私を魅了する。」

沢木：「いや、彼女の月光の如く、温かく全てを包み込む優しさも私を魅了します。」

艶島：「人の性格というものはそう簡単にわかるものではない。人の心は時間とともに変化し、また外からの影響で敏感に反応する。人の心は不安定でうつろいやすいものだ。故に、確固たる性格というものはない。性格で気に入ったのはただ瞬間の一面を見たに過ぎぬ。」

沢木：「・・・・・・」

艶島：「自然ほど不思議で尚且、美しいものは無い。全てのものは絶えず変化している。」

しかし、その根底には普遍的な何かがあるはずである。その何かの投影によって美が現出しているはずだ。それに、自分の存在なんてものは自然のなかではあやふやなものだよ。自然のなかにいる自分は自分でいることを意識して自分でいられる。それによって自分の認識のなかでのみ自然是存在し、その範囲でしか自然を捉えられられないのだ。だから、この範囲を広げたいんだよ。しかし、まだまだ身の回りのことでさえ不思議で満ち溢れて、知りたいことばかりである。その上、天文の対象が無限のものでより知りたいことがあり頭が混乱しそうなのだよ。」

艶島の返（変？）答は難解を極めた。しかし、沢木は先達の深淵な宇宙の中に愛を認識する為にまだ知るべきことがあるのだという教えを感じ取った。黙って聞いていた後輩の椿は重々しく口を開いて呟く「我思う故に愛在り。」沢木の頭はますます混乱した。その時呆然としていた沢木の目には地平線から上ったばかりのシリウスの輝きが入った。

それから数日後、サークル全体で天体写真を撮る為、大勢で天文台に行った。2階の観測所に撮影者、記録者2人のみ居て、残りは下のクーラーのある休憩室で自然の様々な事象、文化論についてそれぞれ議論を戦わせていた。また、天文台の仲鳥が菩提樹の下で瞑想していた。1階にて、沢木は仲鳥のところに行き、

「私は、白石さんという女性を好きになって、愛の本質について改めて考えております。」

しかし、考えれば考える程思索の無間地獄から抜け出すことができないのです。どうすればよいでしょうか？」

と問うと、目を閉じたまま仲鳥は

「ほう、即ち、君は愛と友情のどちらを優先するか、という二律背反に陥っているのだなあ。」

と仲島は瞑想を続けつつ、おもむろにひげをなでて言った。沢木は自分の苦悩の原因が、白石恵から思いを寄せられている岩永との友情、それと恵に対する我が身を焦がされねばかりの愛の炎との相克にあることに初めて気付く。すべてを仲島によって見通され、

沢木：「…………確かにそうですが、友情を犠牲にして愛情を得ることなど僕にどうしてできましょーや。」

仲島：「森！」

これまで閉じていた

「汝、謂てり！ 愛とは宇宙なり！ 愛とは万物の

「僕、誤り！愛とは手當より、愛とは万物の依頼より、愛とは概念、正義、勇気、希望への扉なり！愛とは……。」

「君の身を犯し行為は男として妻の夫情、愛情といふものではあるまい。上の如に行ひよ

「君の身を引く行為は果たして眞の友情、愛情といえるのであらうか。人の爲に行つことは所詮偽物で偽善にすぎない。友情とは君が考えている形だけではないのだよ。それにだな、いや、これ以上は言うまい。聞きたいか、いや止めておこう。」

そう言つと一端口を閉した。そして、再び

「Love and Peace 光あれ。」

「…………」
と言ひ終わると仲鳥はニコと微笑み、再び瞑想に入った。

しばらくして、扉から、「最後に沢木が撮ろうか。」と声がしたので急いで沢木は2階にのぼった。すでに午前4時を過ぎて9月とは思えない寒さである。鏡筒に露がついていた。夕方はあれほど晴れわたっていたのだが、いまは殆ど雲でいっぱいの空となった。沢木は、後輩に

「もう撮れないね。仕方がないから、君は下で休んでいて。ここは僕、1人で片づけるから。お疲れ様。」

と言った。「富士山麓オウム鳴く。」と椿は言い残して去った。その言葉の真意は何か、椿は何を言いたかったのか沢木は解らなかった。沢木1人となった。沢木は、雲の切れ間から輝くシリウスをみつけた。その瞬間、先程の仲鳥の言葉がふと頭の中をよぎった。夜が明ける前の澄み切った空気が冷たいのだが心地よく、周りは暗いにもかかわらず、今見ている世界は輝いている様に感じられた。沢木の心は澄み淨められた。沢木の意志は宇宙をはばたくように翼を広げ、沢木の瞳が愛への情熱で輝きを増してきていた。

次号へ

今年の夏合宿の思い出集

熊本大学 天文研究会

「夏合宿の感想」

文学部 1年 3組 古賀 邦子

八月十日、密かに期待していた夏合宿が始まった。天気は上々でかなり暑く、気を抜くと寄ってくる蚊に苛立ちながら、私は重い荷物と買ったばかりの寝袋をぶらつかせていた。サークルの人達に会うのも久しぶりなので、すこし浮かれながら立山君の車にスイカとっしょに乗せてもらった。目的地のカブトムシ村に着くまでは、合宿って何をするんだろう? いつ寝るんだろう? カブトムシは? といった感じでこれから二日間がどうなるのかさっぱり見当もつかずにいた。

かさっぱり見当もつかずにいた。

宿泊所に着くとすぐ「勉強会」があり、どうやら流れ星の方向、時間、明るさ、その雲量などを観察者と記録者に分担して観測するらしいことがわかった。なによりの不安は星座の知識が乏しくてうまくいかないのではないかということだ。何事も最初が一番緊張する。私はまず天頂の担当になっていた。天頂は、ゴロンと寝ころがって真上をみるとほとんどが天の川で（私にはそう思えるほどそれは凄かった）川を挟んでおとひめとひこぼし、それに白鳥座。私はその三つしか知らなかったが、他の星の名前や明るさなどは鷹見さんにお教えもらった。夏といっても夜は冷える。寒いな、体が冷たくなってきたと思いなんに教えてもらった。夏といっても夜は冷える。寒いな、体が冷たくなってきたと思いながらも、「流星を見のがすまい」としてじっと空を見ていたつもりだったが、隣で鷹見さんが「5番! ○○座、3かな。」といったふうに次々と見つけられるので、え?いつどこに?とキョロキョロしていた。たぶん私は木を見て森を見てないふうだったのだろう。だんだん落ちついてくると、ようやく流れるところを見つけられるようになってきたが。

次の日、菊池渓谷に初めていった。ひんやりと涼しくて、夏によく合った心地よさだった。ごつごつの岩にこけが生えていて、まさか滑らないだろうと思っていたがお約束でこけてしまつたのは、あまりいただけなかった。そして夜は観測だったが、雲がでてきたので途中で打ち切られた。風もすごかったが、なにより寒い!

最後は立山君の車の中で、清水さんと歌を気持ち良くうたってから終わっていった。
そしてやっぱり星はいいなと思った。次の合宿までには、教わった星座のほかにももう少し名前を覚えよう、人に教えられるくらいは、と思う。

夏合宿に参加して

清水 美紀

8月10日～12日にペルセウス流星群を観測するため、夏合宿が行われました。

観測1日目の10日は、観測の前に宿泊所であったかぶとむし王国で、観測の方法についての勉教会が開かれました。勉教会が終わると、星座に疎かった私は、早見表を片手に星座の位置を確認しました。それから、観測地へ行き、準備をし、午後11時から翌1日の午前4時まで5時間にわたって観測が行われました。少々風は吹いていたものの、天気がよかつたため4等星くらいの星も見え、目印となる星座を見つけるのにとても苦労しました。観測が始まると星座の位置が不確かなることも忘れ、ひたすら流星を待ちました。初めて流星を観測したとき、はっきりとした位置をうまく伝えられず、流星が観測される度に緊張しながら報告したのを覚えています。しかし、時間が経つにつれ次第に要領を得てスムーズに観測ができるようになりました。この日は5時間ともほとんど雲に遮られることなく観測できたので、観測地についたときは空いっぱいに広がった天の川や無数の星に感動していた私も、観測が終わるとほっつとしたと同時に、次の観測を苦痛に感じながら1日目の観測を終えました。

観測2日目の11日は、1日目と同様11時から観測を始めましたが、1日目とは打って変わって雲が多く、方角によってはほとんど観測のできないところもあり、2～3等星までしか見えませんでした。その上、観測開始後2時間ほどすると、ほとんどの方角で雲が出て観測が困難になつたため観測を中止することになりました。

全てのことが初体験だった私にとって、この2日間は足を引っ張った形になってしまいましたが、たくさんの流星を見ることができてとても嬉かったです。次の流星観測では、今回の夏合宿よりもきちんと観測できるようにしたいです。

いきない寒い。口中は暑い。熊本市内は10月8日夜から、いきない寒い。8日の夜なんて、息が白くになりました。(私の知る限りではさすが。。。) 店の近くにある「ちやいショップ」に行き、「昨日帰りは寒かったですねー、帰りはバイクだけれど、たいがな寒かったですよー。家に着いてから息が白なってですねー。。。」なーんて言う話で盛り上がりしました。熊本はいきなり冬に突入でせうか? 熊本は秋が短いですね。口中は夏・朝晩は秋(冬?) となるのであります。毎年ですが藤崎宮秋期大祭が終わると寒くありますね。これから日本酒の季節。あ~嬉しい。なんか年中酒の話はっかいのよう。。。もうすぐ忘年会。。。

☆ 11月の天文現象&行事 ☆

- 3日(日) 下弦(21:50)
おうし座流星群の南群が極大
- 7日(木) 立冬(12:27)
- 9日(土) トーキアバウト(20:00~)
- 11日(月) 新月(13:16)
- 17日(日) しし座γ流星群が極大
- 18日(月) 上弦(10:09)
- 22日(金) 小雪(09:49)
- 25日(月) 満月(13:10)

熊本県民天文台機関誌 「星屑」 1996年11月号 通巻260号

発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-42

熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台

TEL 0964-28-6060

振替口座 01980-0-24463

熊本県民天文台事務局 担当 中尾 富作

天文台ホームページ

http://denouken.kmt-technopolis.or.jp/KUMA/KCAO_TST.HTML